

カウンセラーの窓から

いかと思ひます。

学校で（軽度発達

は く い み

中学1年のショウタさんは入学後まもなく登校を渋るようになり、1学期のなかばにはほとんど学校に来られなくなつてしまいました。今後の対応を考えるために保護者と面接を行いました。

シヨウタさんは三人きょうだいの一番上。3才年下の弟と6才年の妹がいます。小学校の中学年までは成績もよく、活発なこどもでした。ところが4年生になったころから登校を渋り始めました。時を同じくして、それまでほとんど手がかかるなかつた就寝、起床、食事などに親の手が必要となり、宿題や学校への提出物を忘れることが目立ちはじめました。担任をはじめ多くの先生達の支えもあり、6年生の終わり頃には教室に戻れるようになりましたが、中学校に入つて再び以前と同じ状況に戻つてしましました。

ここで少し不登校症状の背景を考えてみたいと思います。ショウタさんには二人のきょううだいがありました。程度の差はありますが、いずれも発達障がいとの診断を受けており、特別支援学校と地域の小学校の特別支援学級に通っていました。母親はいつも長男とのかわりもそそここに二人をバス停や学校に送っていたのです。

きょううだいの中に発達に気がかりなお子さんがいると、どうしても親の気持ちがそちらに奪われがちです。ショウタさんのようにそれが年齢の近いきょううだいであれば、（たとえ親にそのような気持ちが無くとも）当人には必要以上の我慢を強いることもあります。かまつてほしい気持ちを押さえ込むことも出てきます。

こうした境遇のこどもに周りの大人ができることは何でしょう。

年齢にもよると思いますが、理窟力が育つてきているこどもであれば、じっくり時間をかけてわかりやすくなり、うだいの障がい状況を伝え、家族全員で支えあうという気持ちを育んでいくことが必要だと思います。そして、親ときようだい一人ひとりが過ごせる時間を意識的にもつことが何より重要なのではないでしょうか。仕事や家事で時間が奪われると、毎日、そうした時間をたっぷりとすることは困難になりますが、一日のうちほんのわずかでも濃密な親子の会話ができる時間を持つて、こどもの普段の気持ちを受け止めてあげる、そんな努力が必要なのではな

いかと思ひます。

近年、小・中学校で（軽度発達障がいなどの）気がかりな児童・生徒が増えているという統計結果が出ていますが、気がかりなこどもへの家庭での支援を考える際には、そのきょうだいへの視線も忘れてはいけないことをショウタさんの事例は教えてくれている



夏休み期間中は気がゆるみがちです。子どもの行動に注意を払うとともに、善悪問わず保護者や地域の大人が子どもの手本となることを十分認識してください。

じわっと効いてくる 子育てのヒント

発行
鯖江市教育委員会
鯖江市社会教育委員会
青少年健全育成鯖江市民会議

協力
丹南青少年愛護センター鯖丹支所

36



神明幼稚園
ブロッコリーの栽培・収穫



鯖江中学校 校内マラソン大会



北中山小学校
校内体育大会における人文字
(10月24日(土)百周年記念式典実施予定)



片上小学校 田植え体験学習

はくみ

べたべたより、ぎゅっ！



子どもの笑顔は家庭の宝です。
わたくしたちも笑顔で元気に子育てを楽し

みましゅう。

すぐそばでいつも手助けをしないと不安になるのはママの方なのかもしだれません。

今のママって愛情表現、誤解しないかねえ。

プラスもあった



子どもに快適な環境を用意することが親の役目だと思いがちですが、今ある環境で工夫しながら生活することの方が大切なんですね。

え。今のママって愛情表現、誤解してないかね
手取り足取り何でも先回りしている感じが
するよ。ちょっと心配しそうじゃないかい。
べたべたスキンシップでは、今に子どもが、
うつとうしがるよ。

すぐそばでいつも手助け
をしないと不安になるのは
ママの方なのかもそれませ
ん。

タイミングよく「わゆつ」
と抱きしめること、それだ

遊びに来たときには、おもちゃをきちんと後始末するあの子。その子の家の周りは、いつもきれいではありませんか。人に親切なあの子。そのお父さんは、地域の奉仕作業に積極的に参加しておられるではありませんか。

はきはき返事をして行儀がよいあの子。その子のお母さんは出会うたびに向こうからあいさつをしてくださるのであります。

子は親の鏡と言いますから、私たちはこのように、子どもをみて親御さんを判断することがあるのでないでしょ
うか。人のことはよく見えます。

さて、あなたのご家庭はいかがでしよう。子どものことをいろいろ言う前に、自分自身の生き方、生活の仕方を振り返つてみるのも、子育てには必要だと思います。

わが家の住宅事情

我が家は狭い。子ども部屋も一つ、三人とも同じ部屋だった。年頃にはかわいそうかとも考えたけど、独立してからも互いに連絡を取り合い助け合っているようだ。狭い我が家がきょうだい仲にはよかつたのかもしれない。

大学生になり一人暮らしをはじめた娘の部屋。久しぶりに会う嬉しい気分でドアを開けたとたん、失敗したかも。

この部屋は何？本当に女の子の部屋？足の踏み場も無い。

こんなことなら、小さい頃から家事を手伝わせておけばよかつたわ。

手伝いは、親のためではなく子どもの将来のためなんですね。

興味を示したものから始めさせてみましょう。

一人娘の一人暮らし

大学生になり一人暮らしをはじめた娘の部屋。久しぶりに会う嬉しい気分でドアを開けたとたん、…失敗したかも。

この部屋は何？本当に女の子の部屋？足の踏み場も無い。

こんなことなら、小さい頃から家事を手伝わせておけばよかつたわ。

A cartoon illustration of a woman with brown hair, wearing a white headband. She has a sad expression, with her eyes closed and a frown on her face. A single tear is falling from her right eye. The background behind her head is a light blue color.

育てたように育つ

「この子は、自分の気持ちをはつきりと言えなくて。」

「あなたは、子どもの思いをじっくりと聞いてあげていますか。」

「子どものためだと思つて、先回りして用意していませんか。」

「この子は、すぐ文句を言うんですよ。」

「あなたは、日頃感謝の言葉を、例えば「ありがとうございます」と、口に出しておられますか。」

「子どもの前でご近所や他人のうわさ話や陰口などしていませんか。」

「どうしてこんな子になってしまったのかしら。」

「それは、あなたがそうなるように育てたからなのです。」

「誰の責任でもない。自分の子は自分が責任を持つて育てなくてはなりません。「育てたように育つ」、当たり前で

先輩たちに聞きました

子育ての体験談を聞く機会は、意外に少ないものですね。先輩たちの失敗談や苦労話の中から、子育てのヒントをこじだしてもよい。

